

◆研究概要など

6年以上英語を勉強してきたのに、「とっさの英語が出てこない」、「せっかく英語を話したつもりなのに伝わらない」、「発表は何とかできるけど、質疑応答が恐ろしい」、「TOEIC®の点数は高いけど、話したり、書いたり自信がない」というような経験はありませんか？残念ながら、昔も今も日本の英語教育への批判がやむことはありません。

専門は、音声学、応用言語学、英語教育ですが、英語教員としての基盤は、「通じる発音で、きちんとした内容を適切な表現で伝えることができ、ネイティブともノンネイティブとも一緒に何かができる人材を育成したい」という思いです。

英語は「何かを成し遂げるためのツール」として、生かしていくべきで、単に文法や単語をたくさん覚えるだけでは自己満足で終わってしまいます。「成し遂げる」といっても、日常的なものからアカデミックな内容、プロフェッショナルな内容まで様々です。「道を教えることができた」、「買い物ができる」という



川での水質検査

ものから、「国際学会で発表し、質疑応答もこなせる」、「発展途上で水質調査を行い、結果を現地の行政に伝え、水質改良設備の設置につなげる」などというものも対象となります。

何のために英語を使いたいのか明確な目的が必要です。

「何かを成し遂げるための英語」、つまりEnglish for Specific Purposes(ESP)では、まずニーズや目的を明確にし、関係する分野の資料を集め、必要な情報や言語表現を分析します。その分析結果を授業に活用するだけでなく、学生が自ら同じプロセスで分析できるようになることを目指しています。自立した学習者として継続して学習し、どんどん使うことを通して、効果的な言語の「使い手」として、言

教養・基礎教育部門

【英語】

教授

にったかおり

新田香織

nittakaori@socio.kindai.ac.jp



語をツールとして世界に貢献してほしいと願っています。そういう「ヒト」を育てるのが研究テーマです。

■研究テーマなど

1. 国際交流の現場で通用する英語能力

アジア・アフリカで活動する日本人が増えていま



スカイプで会話

す。彼らに必要な英語能力とはどのようなものかを、さまざまな実践を通して

探っています。2016 年は、主に医療系を専攻する学生 8 名をベトナム・ホーチミンに連れていき、3つの病院を視察し、ベトナム人の医学生や医者、そして現地で働く日本人医師や JICA から派遣されている言語聴覚士と議論をする予定です。

学生たちは、自分の興味のある分野、そしてベトナム人と共有したい日本医療の現状などについてのプレゼンテーションをあらかじめ準備していきます。準備の段階で専門の教員そして英語教員からのアドバイスを受けます。どの程度の準備が必要なのかも重要な研究対象となります。

2. 国内の外国人との協働・共生

東大阪にも多くの外国人が住んでいます。総合

社会学部でも留学生が多く学んでいます。彼らの現状を「知る」ことから始めて、「共に生きる」ために「協力して働きかけられる」ことは何かを「考え」、そして「行動する」ことを目指してほしいと願っています。特に、JFC(ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレン)は、英語の方が自己表現しやすい場合が多々あります。孤立している JFC を、英語をツールとして支援するなど、外国に行かなくても、国内でできる国際貢献を探ります。

3. 英語教員になるための音声学

近畿大学教職教育部で「英語音声学」の授業を担当しています。教育学部のない近大ですが、毎年4月には近大卒業生が英語教員として、関西を中心にあちらこちらで教壇に立ちます。中学・高校だけでなく、小学校での英語教育にも近大生が活躍の場を広げています。英語コミュニケーション能力を重視するニーズに応えられるように、生徒のロールモデルになりうる知識と実践力を備えた教員養成の方法を研究しています。日本語音声学の知識を基盤として、英語音声学との比較、そして効果的な教授法も含めて、研究対象としています。

●論文など

1. Nitta, Kaori (2014). English for International Cooperation, AILA 2014 World Congress, Poster, Brisbane, Australia.
2. Nitta, Kaori (2013). Using English on the Site of International Cooperation. 『近畿大学教養・外国語教育センター紀要(外国語編)』第4巻第2号, 109-123.
3. 新田香織, 白川泰旭, クック・トム(2011).「国際協力現場で求められる統合的英語力育成のためのプログラムの構築と実践」『科学研究費補助金基盤研究(C)報告書:課題番号 21520611』.

▲趣味など

- 混成合唱、カラオケなど声を出すこと。
- 旅行・ドライブ



◆授業の宣伝など

我が子目線でサポートします。厳しいですが、ついてくれば必ず力をつく!!!
やる気のある学生、楽しく学びたいガッツのある学生募集中!!!

4. アクティブラーニング

2012年8月に出された中教審の答申で、明確な「能動的な学修(アクティブラーニング)」への転換が言及されました。その答申の用語集では、アクティブラーニングとは、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査 学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と定義づけられています。

現在、オンラインで学習できる世界の大学の授業を予習してもらい、授業ではその内容についての議論をする「反転授業」の効果进行研究しています。まだまだ「言われたらする」という「リアクティブ(reactive)」にとどまっている学生をいかに「自ら積極的に動ける」つまり「プロアクティブ(proactive)」のレベルまで変貌させられるかがテーマです。